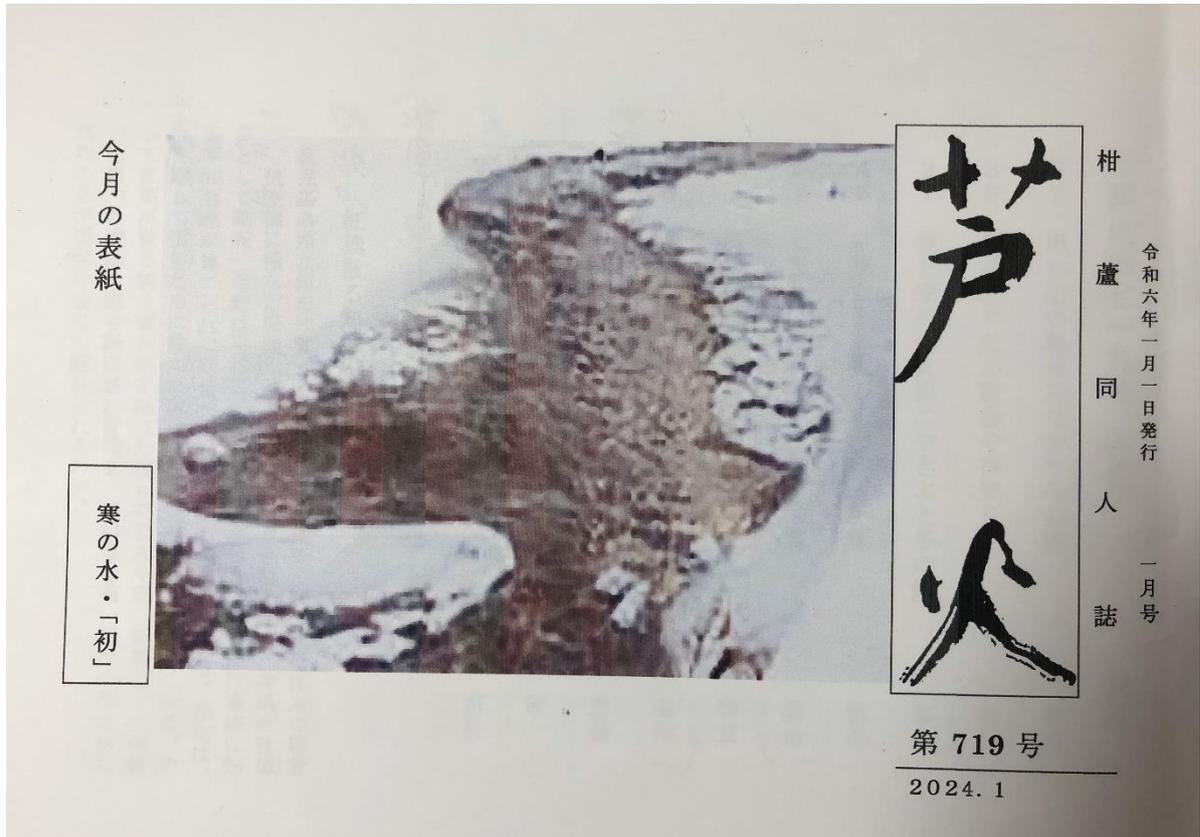


俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第719号（令和六年一月号）表紙

- ・冬の季語：「寒の水」（晩冬・地理）
- ・来月号（二月号）の兼題です。



<寒の水>寒中の水で、つめたい水だが、清らかな印象がある。とりわけ寒九（寒の入りから九日目）の水がよいとされています。風邪、胃腸病によく、からだを丈夫にするといわれています。寒中の水は水質がよいとして、酒を造り、布を晒し、寒餅を作り、化粧水を作ります。他に、寒紅、刀磨ぎ、鏡磨き、凍り豆腐、寒天の製造、白玉粉作りなどにも用いられるそうです。

（子季語）寒水、寒九の水

季語「寒の水」を詠った有名俳人の句に以下のようなものがあります。

- ・すいと来て浮かぶ藁すべ寒の水／田村木国
- ・わきあふれ流れゆくなり寒の水／山口青邨
- ・焦土より寒水はしり出づるかな／加藤楸邨
- ・寒の水念ずるやうに飲みにけり／細見綾子
- ・寒の水牛まばたかず飲むことよ／星野麦丘山
- ・寒の水棒の如くに呑みにけり／藤松遊子

☆前月の清記表に記載の中から選ばれた高得点句（5点以上）

- ・前月の清記表に記載された15名の105句のなかから互選で高得点を獲得した句です。
 - ・病む妻の紙紐細工文化の日／碧亥・・・6点
 - ・思ひ出の場所みな変り冬の雨／草炎・・・5点
 - ・冬ぬくし五百羅漢の苦笑ひ／恵吾・・・5点

*以下は4点句（惜しい！もう少しで5点）です。

- ・まねき書く五代目細身京師走／史浩
- ・紅葉散る知覧の志士の置手紙／恵吾
- ・再雇用されて勤労感謝の日／温州
- ・父よりも長生きをして菊日和／緑汀
- ・侘助や無住の寺の阿弥陀仏／温州
- ・豊敷きの耶蘇の教会石蓀の花／恵吾

☆その他のトピックス

①「散歩道の自然～写真解説」：安本緑汀

筆者の緑汀さんは写真が得意で毎回散歩道で見つけた植物を写真入りで解説してくれています。

今月は、「萩、薄、桔梗、撫子、女郎花、葛、藤袴これぞ七草」と山上憶良により詠われた（万葉集）秋の七草を取り上げられています。

②「緑汀さんの『散歩道の自然』」：後藤碧亥

緑汀さんが「散歩道の自然」で取り上げた植物を、別の視点でとらえた随想文を掲載。今月はアオイ科の中のフヨウについて考察されています。

③「柑芦二十期会を和歌山で開催（十一月二十一・二十二日）」：平林温州

京都、滋賀、三重、愛知で開催してきた柑芦二十期会は、経済学部創立百周年記念事業開催にあわせて、今年和歌山で開催しました。

総勢十名の参加者は、初日は内装が新しくなった松下会館に集合し会館内および南門界限を散策しました。そしてその夜は、和歌山駅東側の東急インにチェックインし、ホテル裏手の居酒屋「三八波」での懇親会を開催しました。懇親会では、五十年前の高松校舎での思い出話に花が咲き大いに盛り上がったところです。翌日は、有志八名で有田川町の有田リソルゴルフクラブで絶好のゴルフ日和のもとゴルフコンペを開催し旧交を温めました。来年は神戸で同期会を開催することを約束して、今年の柑芦二十期は名残惜しくもお開きとなりました。

④「京都・落柿舎の師走」：穂永穂心

京都落柿舎での句会の前に、俳句仲間三人と近所の愛宕念仏寺、広沢の池、大野原神社等の嵯峨野を散策された模様を記述されています。

⑤以下の方々より近況報告がありそれぞれ転載されています。

- ・要様
- ・緑汀様

<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の18名
- ・昭和38年（1963年）結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）（俳号：穂心）
メルアド：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先;
 - ・山下 勝（大学14期・前編集者）（俳号：勝）
メルアド：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康（大学20期）（俳号：温州）
メルアド：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上

（文責：平林 温州）